



東京形成歯科研究会

&インプラント国際情報

H.25.7.30 (TUE)
No.14

原稿募集中

発行

編集 東京形成歯科研究会
企画 オクデラメディカル
発行者 奥寺元

東京都北区王子2-26-2-3F
TEL 03(3919)5111
FAX 03(3919)5114
E-mail: okudera@carrot.ocn.ne.jp
http://www.tpdimplant.com/

日本歯科新聞

(7) 第1794号 2013年 (平成25年) 6月25日 (火曜日)

口腔再生の意義強調

美容外科学会で
歯科医の奥寺氏

第101回日本美容外科学会の顎顔面口腔外科部門に参加したISBB国際血液再生臨床応用学会の奥寺元理事長は、「現代における口腔領域の再生臨床の意義について」と題し、無歯顎顔貌の美容再生について、血液生体材料のクロスファクターを応用し、安全で効果的な臨床を紹介した。

同学会は15、16の両日、東京都東区の東京ビッグサイトで開かれ、顎顔面口腔外科部門は15日に血液生体材料臨床応用・幹細胞治療セッション、16日に美容外科セッションが行われた。写真。

両日のセッションで座長を務めた奥寺氏は15日の口腔領域再生臨床の意義について、「口腔領域は顔貌の2分の1まで及ぶ形態上重要な位置にある」と述べ、無歯顎顔貌の美容再生における義歯と比べたインプラント治療の優位性として唾液量や血液の流れ、肺活量の多さを上げた。良質な顎骨再建での歯科領域の治療法を説明した。



良真開業医の堀内克啓氏が「骨結合インプラントと自家骨移植・歯槽骨延長術による口腔顔面の審美的かつ機能的再建」千葉開業の田中譲治氏が「インプラントオーバードンチャーによる口元美容」で話した。

第101回日本美容外科学会

The 101st Congress of Japan Society of Aesthetic Surgery (JSAS)
会期:2013年6月15日~16日 会場:東京ビッグサイト

第101回日本美容外科学会 副会長
顎顔面口腔外科部門コーディネーター:医学博士 奥寺元



顎顔面口腔外科部門

I 血液生体材料臨床応用・幹細胞治療骨軟組織セッション

6月15日 PM13:00 ~ 15:30

- | | |
|---|-------------------------------|
| ① ISBB 理事長・国際美容口腔外科アカデミー代表
王子歯科美容外科クリニック 奥寺元 D.D.S,ph.D, | ② Dr.LIM JONG HAK MD,ph.D, 韓国 |
| ③ Prof. CHEN-YAO SU D.D.S,ph.D, 台湾 | ④ Dr. 奥寺 俊允 D.D.S,ph.D, 東京 |
| ⑤ Dr.佐々木 脩浩 D.D.S,ph.D, 千葉 | ⑥ Dr. 衣笠 哲雄 MD,ph.D, 大阪 |
| ⑦ ディスカッション | |



Dr.LIM JONG HAK



Prof. CHEN-YAO SU



Dr.奥寺 俊允



Dr.佐々木 脩浩



Dr.衣笠 哲雄

II 美容口腔外科セッション

6月16日 PM13:00 ~ 15:30

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| ① 奥寺 元 D.D.S,ph.D, | ② 堀内 克啓 D.D.S,ph.D, |
| ③ 田中 譲治 D.D.S,ph.D, 田中歯科医院 | ④ 菊池 龍介 D.D.S,ph.D, キクチ歯科 |
| ⑤ 鈴木 正史 D.D.S,ph.D, 銀座柳通り歯科クリニック | |



Dr.奥寺 元



Dr.堀内 克啓



Dr.田中 譲治



Dr.菊池 龍介



Dr.鈴木 正史

III ポスターセッション 上のほかはポスター発表となります

国際美容口腔外科アカデミー ポスター及び認定医取得エントリー募集



顎骨再生と保全を目指した歯科治療 -顎顔面美容口腔外科への道-

監修:編:奥寺元 (医学博士)

編集:(公)日本口腔インプラント学会指定研究施設 東京形成歯科研究会/A4判・オールカラー・96頁・(予価)12,000円+税
ベテランインプラントジストが豊富な経験と研究に基づき、歯科臨床の領域拡大を目指した顎顔面口腔美容外科治療を紹介する。
多彩な症例からみる新たな可能性を切り開くインプラント。

column

今、各歯科大学は冬の時代と言われ、かつてない低迷時期が続いている、と言われて久しい。

その中で、歯科大学のレベルも二極化を迎えて、大学によりずいぶん差があると感じている。その一つとして、入学応募者数の差が激しく物語っている。

また、学術分野でもその根底にある、大学院の定員も甚だ大学院の根幹をなさないぐらい、定員割れも多く散見される。この事態に際して、監督官庁や歯科教育協議会が何も指導しないのは、責任逃れではないのか……

国も独立法人化や私学助成金のカットを行い、大学は、経営を前提とし金ずるのインプラント講座が全盛で筍の様にめきめき出てきている。学術原点からそのインプラント講座は既存の学問との違いを出すことが講座として真偽を求められてくるのも時間の問題である。

その他の講座は人件費の減額からリストラを求められ、しかも実績も求められているが、現実のスタッフの現状から実績を出すことは無理ではないだろうか?

たとえば、教授業務を聞かれた場合、その職種は学生講義、実習、実験、はたまた学生指導、クラブ顧問、大学経営、そして各種委員会、社会活動、学会活動(やみ雲に公益法人化を行い、煩雑な総会や事業計画をしつかりその名のもとに事務をこなさなければならぬ)。最悪なのは、恩師、仲間から関連学会に勧誘されて、一教授最低五学会以上に絡み、どうするのとか言いたい……スパーマンでも無理である。過酷な労働のために、長年勤めた教授職を退任する方が出ているという。どれをとっても内容は甚大である。

某歯科大学は入学者を求めるために、ある国の塾と契約を結び、はたまた隣国に出向き人集めをしている。それ自体応募者の能力があれば問題はないが、日本人の師弟さへも学生指導に難儀をしているのに生活環境の違う学生に、リストラで人材がいらないのに、どこまでケアが出来るかが疑問が残る。国際問題に発展しなければいいのだが。

これらの諸問題を緊急に解決するには、星の数ほどある歯科医学学会の整理統合が急務である。且つ、天下り先の重複関連法人組織の整理統合も望まれる。

歯科医師会の在り方、同窓会の在り方や大学の非常勤講師の立場を抜本的に改革し、ボランティアにも教室維持のために責任と権限を与えて機能を果たさせれば変化できるのではないだろうか?

母校の低迷で心を痛める立場からの悲痛な思いを記す

2013年盛夏

奥寺 記



東京形成学会活動

第43回（公益）日本口腔インプラント学会・学術大会に発表エントリーが6演題受理される。東京形成が取り組んでいる、インプラントケアの基礎的研究3演題と骨再生新素材の研究3演題を発表の予定である。その他会員による発表が2～3題予定されている。認定試験のケーブルが5名の予定である。

ブラキシズムにみられる患者における睡眠時咬合負担に関する研究

A preliminary study on the occlusal load
in sleeping subjects with severe habits of bruxism

- 鯨岡 創一郎¹⁾, 相澤 八大¹⁾, 辻野 哲弘¹⁾, 木本 一成^{1, 2)}, 奥寺 元¹⁾
(10354) (4440) (6246) (5893) (885)

1) 東京形成歯科研究会, 2) 神奈川歯科大学健康科学講座口腔保健学分野

Contour 指数を用いたインプラント上部構造と天然歯との比較

- 矢守 俊介, 柳 時悦, 奥寺 元, 木下 三博
東京形成歯科研究会

細菌数測定器における有効性と年齢及び舌・インプラント部位の比較

Clinical application by measuring the number of bacteria
in patients with implant and age

- 川端 秀男, 鈴木 泰二, 鳥村 敏明, 佐々木 脩浩, 奥寺 元
(3554) (10119) (1576) (8648) (885)

東京形成歯科研究会

澱粉・ホタテ由来 Ca 欠損 HA 顆粒の in vitro 骨伝導能評価

- 北村 豊¹⁾, 増木 英郎¹⁾, 佐藤 篤¹⁾, 古澤 利武^{1, 2)}, 川井 貴裕²⁾
1) 東京形成歯科研究会, 2) 山形大学大学院理工学研究科

澱粉・ホタテ由来βリン酸三カルシウム複合顆粒の in vitro 骨形成能評価

- 柳 時悦¹⁾, 豊田 寿久¹⁾, 磯辺 和重¹⁾, 古澤 利武^{1, 2)}, 川井 貴裕²⁾
1) 東京形成歯科研究会, 2) 山形大学大学院理工学研究科

低温型ハイドロキシアパタイト粒子における フッ化物溶液浸漬処理が骨伝導性に与える効果

- 古澤 利武¹⁾, 木本 一成^{1, 2)}, 奥寺 俊允¹⁾, 奥寺 元¹⁾, 豊田 寿久¹⁾
1) 東京形成歯科研究会, 2) 神奈川歯科大学大学院口腔衛生学講座

海外でも我々の研究が注目されています

AAID 論文から ADA（米国歯科医師会）に取り上げられ
News になりました。

骨再生にフッ素

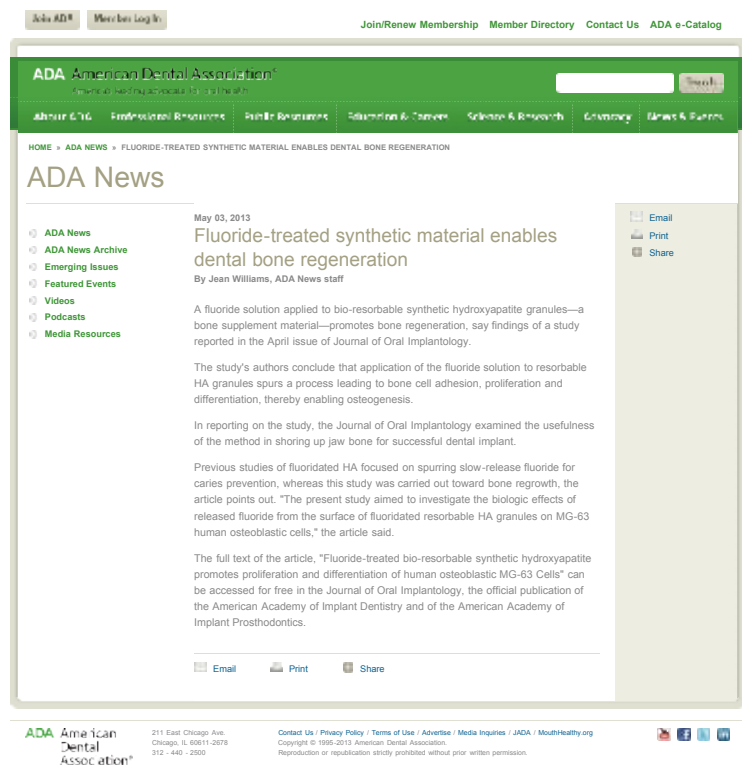
AAID 誌に木本氏ら論文

アメリカ口腔インプラント学会(AAID)の機関誌「Journal of Oral Implantology」オンライン版に木本一成神奈川歯科大学准教授と奥寺元日本口腔インプラント学会教育認定施設東京形成歯科研究会会長らのフッ素学の基礎的研究と再生臨床のドッキングに関する一連の論文が取り上げられた。

論文のタイトルは「結晶化したフルオロアパタイト(F/A)の機能的意義」や「F

A コーティングHAIインプラントマテリアルの動物実験」の「評価」など。奥寺氏は、骨再生でのフッ化物の効果についての長年の研究成果と、新たな見解が評価されたものとし、「基礎医学にうずもれていた科学を臨床の分野に応用したもので、臨床家が現状を踏まえて発想した結果」と強調。「臨床家のアイデアがさらなる発展につながると期待を示した。

Fluoride-treated synthetic material enables dental bone regeneration - American Dental Association - ADA.org



ある紀行

奥寺 元



ら台湾メンバーの思いを的確に表現している、画風は心に響きたちまち虜になった。

何とか求めたい一心であった。その意義を感じ取った初老の画家は、快く理解をして、応じてくれた。

彼らにとって、日本での最大のお土産と思う。おそらく国では日本最高の景勝地を出会いと共に、その絵と共に自慢していることと思う。

四月、五月はおびただしい海外活動や講演の連続であったが、忙中閑ありと言う事に恵まれた。
学会の合間に2つの景勝地に触れる機会を得た。その雑感を述べる。

上高地の新緑は、この上ない素晴らしさを誇っている。山の岩肌と白い残雪のコントラスト、目が覚めるような青空、心が洗われる清流。さすが、世界的な景勝地である。

特にこの時期の、限りなく無垢な若葉は、国際的なリゾート観光地として諸外国には持ち合わせない。若葉は、心にしみわたる。

今回案内した、台湾メンバーの参加者や熱帯地方からの観光客には、筆舌に尽くしがたい光景であろう。この時期、台湾の友人たちを案内する機会に恵まれた。彼らの上高地との出会いは、まさに驚異的で、その感動で心を深く動かされていた。彼らが日常的に見ている熱帯のみどりは、深緑である。一斉に新緑になる光景は台湾に山々が多いとは言えない。

何とか、目に焼き付けようと、そしてデジカメでばちと撮りまくっていた。果たして、その感動は残せるものかと、面々が認識し始めていた。

偶然に上高地の景勝に魅せられて逗留。そこにいた画家との出会いが彼

二〇一三年六月 上高地と利尻にて

MISCHの訳本が出来ました！

東京形成会員による出版協力で

MISCH

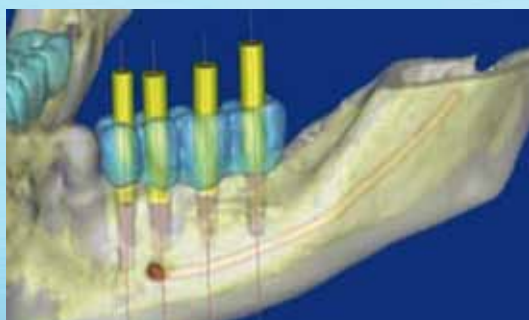
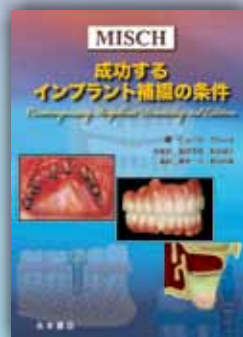
成功するインプラント補綴の条件

Contemporary Implant Dentistry 3rd Edition

著：Carl E. Misch

総監訳：前田芳信 和田誠大 監訳：奥寺 元 懸田利孝

- ◇「論理的根拠」「治療計画」「基礎科学」「外科手術」「軟組織・硬組織のリハビリテーション」「メンテナンス」の6つのPart、42に及びChapterにより、インプラント治療に必要なすべてを網羅。
- ◇確実に数多くのエビデンスと、豊富な臨床例を基に解説。
- ◇CTや、コンピュータによるサージカルテンプレートなどの普及を受け、外科手技について大幅に加筆。また、術後のメンテナンスの重要性を従来にも増して強調している。
- ◇「いかにインプラント治療を成功させて、患者さんに喜んでもらえるようにするか」、「いかにその過程や術後に問題を生じないようにするか」という著者の一貫した考えの集大成。



時代に応じて内容を加筆・修正しながら、基本事項は忠実に変えない本書は、北米でもっとも読まれているインプラントテキストの一冊。



■A4 判上製 ■オールカラー ■1,080 頁 ■定価（本体 27,000 円 + 税） ISBN 978-4-8160-1257-0

株式会社 永末書店
http://www.nagasueshoten.co.jp

本社
〒602-8446 京都市上京区五辻通大宮西入五辻町69-2
TEL: 075-415-7280 FAX: 075-415-7290
E-mail: kyoto@nagasueshoten.co.jp

目次

Part I インプラント治療における論理的根拠 インプラントがなぜ、どこに、どのような形で必要かを解説

- 1 インプラント補綴の合理性
- 2 歯根形態インプラントの用語
- 3 画像診断とその方法
- 4 インプラント治療におけるストレス治療理論
- 5 インプラント 歯科学における補綴オプション
- 6 治療計画：患者の状況に関連する力学因子
- 7 骨密度：治療計画の重要な決定因子
- 8 重要なインプラントポジションとインプラント数に関連した治療計画
- 9 インプラント体のサイズ：生体力学的、審美的根拠
- 10 インプラント補綴に利用可能な骨
- 11 インプラントデザインの科学的根拠

Part II 治療計画

インプラントを用いた治療計画の立案法を、上下顎、欠損部位別に解説

- 12 インプラント前補綴：全体の評価、個々の基準、治療用義歯
- 13 診断用模型とサージカルテンプレート
- 14 下顎インプラント・オーバーデンチャーの治療計画：システムティックアプローチ
- 15 下顎無歯顎に対する固定性補綴による治療計画
- 16 単独歯欠損へのインプラント補綴：治療オプション
- 17 上顎に対するインプラント治療計画：固定性ならびにオーバーデンチャーによる補綴
- 18 無歯顎の上顎臼歯部のための治療計画
- 19 部分欠損ならびに無歯顎の分類と治療計画

Part III 基礎科学

インプラント治療に必要な解剖、薬物、材料から骨の生理、力学反応などを解説

- 20 歯科インプラント患者の医学的評価
- 21 インプラント治療における薬理学

- 22 インプラントのための解剖
- 23 頭頸部における歯の感染の拡がり
- 24 歯科用インプラントに対する生体材料
- 25 インプラント 歯科学における臨床生体力学
- 26 骨の生理学、代謝、生体力学
- 27 インプラントの表面性状
- 28 機械的負荷に対する骨の応答

Part IV インプラント手術

インプラント埋入にかかわる注意点を偶発症との関連にも触れて解説

- 29 骨密度：外科的アプローチと治療への影響
- 30 臼歯部単独歯修復における外科的ガイドライン
- 31 下顎無歯顎患者のインプラント埋入窩形成：インプラント埋入
- 32 二次手術：治療過程の合併症の露出と治療
- 33 前歯部単独歯欠損補綴：外科的観点から
- 34 切歯骨の手術：インプラント埋入・骨拡大・鼻腔底挙上術・切歯孔インプラント
- 35 即時負荷の応用：論理的根拠と治療

Part V 軟組織・硬組織のリハビリテーション

軟組織、硬組織の移植を予知性高く行うための注意点を解説

- 36 骨増生と骨増生材料の鍵
- 37 抜歯、ソケットグラフト、そしてバリアメンブレンによる骨再生
- 38 上顎洞の解剖学、病理学、移植手術
- 39 下顎の供給ブロック骨移植：下顎結合部と下顎枝
- 40 骨内インプラントのための口腔外からの自家骨移植：腸骨と脛骨

Part VI インプラントのメンテナンス

経過において何を観察し、いつどのような介入が必要かを解説

- 41 インプラントは歯ではない：歯周疾患指数の比較
- 42 インプラントのメンテナンス：健康度指数におけるインプラントの質

バイオインテグレーション学会に参加して

東京形成歯科研究会 豊田 寿久



去る6月23日札幌で行われたバイオインテグレーション学会に参加してきました。Titan 表面の改質をしたインプラントが主流ではありますが、HA表面のインプラントも見直されてきており、特に薄膜HAに注目が集まっています。骨補填材についての議論もほんの僅かではありますが始まっています。欧米に10年遅れをとった分野ですが、インプラントを扱う臨床家としては避けて通れないテーマです。合わせて、当東京形成歯科研究会でも研究テーマの一つがフッ化物処理をしたHA顆粒の研究であり、他施設のこの分野における進展状況を知る意味合いと、HAに対する洞察を深める機会であり、私にとっては just on time な内容であったと思っています。

学会参加者は北海道を中心に100名前後で小さな集まりでしたが、近畿、九州などから歯科以外の研究者（工学系）が参加しており、興味ある発表も散見されました。特に興味深かったのは横瀬先生（明海大学）のメカニカルストレスと骨組織のテーマで、何もしないと思われていた骨細胞が実は重要な役割を果たしており、力、レーザー、超音波といった刺激に対して骨塩量を調整しているということであり、そのメカニズムの解明がこれからのテーマであるとのこととす。また近畿大学のポスター発表では、フッ素化アパタイト薄膜の研究が紹介され

ていましたが、生物学的側面よりも工学的側面の評価が多く、生体に応用するには課題が多いという印象を受けました。イブニングセッションでは奥寺先生が口演され、硬軟組織を含めたfacial controlという内容で、インプラントが顔貌を含めた組織機能の回復に貢献すること、またフッ化物を応用した補填材の臨床応用についても講演されましたが、これには九州大学の石川先生（歯科理工学）から大変興味深い研究なのでぜひ進めてほしいとの激励をいただきました。フッ化物処理はまだまだ知られていないという印象をうけました。

学会終了後は旭川で開業の増木先生が富良野に招待してくださり、のんびりとした素晴らしいひと時を過ごすことができました。ラベンダーは一部しか咲いていませんでしたが、それでも北の大地は来る人に魅惑的であり、憧れて移住する人が多いということに納得させられました。

24日は「馬糞ウニ」を食べるからという奥寺先生の言葉につられ、稚内からフェリーにゆられ4時間、利尻というところで、古い民家を案内してもらい、ホタテ、ナマコなどを生きたまま刺身で味わうことができ、新鮮な魚介類のおいしさに感動しながら、私たちはなんと古いものを食べているのだらうと実感しました。利尻富士は雲がかかっていて、帰り際にすこしだけ、登山家憧れの名峰にふさわしい優美な全貌を見せてくれました。大盛りの馬糞ウニ井しかりたべてきました。

「MISCH成功するインプラント補綴の条件」訳本出版記念講演会 懸田利孝追悼記念

時代に応じて内容を加筆・修正しながら、基本事項は忠実に変えない本書は、世界中で最も読まれているインプラント・テキストの一つです。

総監修：前田 芳信 和田 誠大 監訳：懸田 利孝 奥寺 元

特 徴

- ◆「論理的根拠」「治療計画」「基礎科学」「外科手術」「軟組織・硬組織のリハビリテーション」「メンテナンス」の6つのPart、42に及ぶChapterにより、インプラント治療に必要なすべてを網羅。
- ◆確実で数多くのエビデンスと、豊富な臨床例を基に解説。
- ◆CTや、コンピュータによるサージカルテンプレートなどの普及を受け、外科手法について大幅に加筆。また、術後のメンテナンスの重要性を従来にも増して強調している。
- ◆「いかにインプラント治療を成功させて患者さんに喜んでもらえるようにするか」、「その過程や術後にいかに問題を生じないようにするか」という著者の一貫した考えの集大成。

総監修：前田 芳信 和田 誠大／監訳：奥寺 元らによる解説講演会

■日 時：2014年1月19日（日）AM9:30～PM4:30 修了
■会 場：東京／王子駅近く王子歯科美容外科クリニック研修室
■参加費：訳本購入者無料（要登録）

■主 催（公益）日本口腔インプラント学会認定教育施設 東京形成歯科研究会
■協 力（公益）日本口腔インプラント学会認定教育施設 懸田嵌植義歯研究所
■後 援 永末書店

両 日本口腔インプラント学会認定教育施設では来年度の認定研修会を募集中！

記念講演会お申込先：オクデラメディカル FAX 03-3919-5114

ご氏名（ふりがな）	〒 ご 住 所	TEL&FAX